令和８年度第１回古賀市図書館協議会 議事録（要点筆記）

【会議名称】

令和８年度第１回古賀市図書館協議会

【日時】

令和８年６月 30 日（火）午後２時 00 分～午後３時 30 分

【場所】

リーパスプラザこが 103 洋室（交流館１階）

【出席者】

出席者：久池井良人会長、轟良子副会長、河野美希江委員、安部俊伯委員、
藤本美智子委員、服部哲治委員、中村素明委員　以上７名

欠席者：松村志穂委員　以上１名

事務局：事務局６名（教育部長、文化課課長、図書館長、図書館係長、係員２名）

傍聴者数：０名

【配布資料】

・次第

・令和７年度 図書館事業実績報告（概況）について　P1～8

・令和８年度 図書館運営方針及び事業計画について　P9～10

・令和８年度 事業実施報告（４～５月）について　P11～13

【次第】

１　開会のことば【課長】

２　部長あいさつ【部長】

３　会長あいさつ【会長】

４　協議等【ここから会長が進行】

1）令和７年度 図書館事業実績報告（概況）について　資料 P 1 ～ 8

2）令和８年度 図書館運営方針及び事業計画について　資料 P 9 ～ 10

3）令和８年度 事業実施報告（４～５月）について　資料 P 11 ～ 13

4）その他

５　閉会のことば【館長】

【議事内容】

１．令和７年度 図書館事業実績報告（概況）について　　資料Ｐ１ ～ ８

・事務局：資料Ｐ１～８について、説明。

・委員：資料 3 ページの入館者の月別差（特に、6～10 月、1～2 月の落ち込み）が大きい理由を質問。

→事務局：システム入替に伴う蔵書点検休館（15 日）の影響があると考えている。全国的な利用者の減少傾向も重なる。イベント等での増減はあるが、明確な原因は特定困難。

→会長：入館者数は最重要指標。令和 7～8 年の落ち込みは重く受け止め、月別の波へのピンポイント対策（季節・天候・行事を踏まえた誘因設計）が必要。

・委員：60～70 代が多いのは理解できるが、40 代の多さは意外。理由は何か。

→事務局：児童書・絵本ニーズの高さ、親が自身のカードで子ども用を借りるケース等が反映されているのではないか。単一要因ではないが、子育て世代の利用が多い。

→会長：親子同伴来館が来館数増の鍵。親子来館を意識した動線・催事設計の重要性。

→委員：年齢でターゲットを絞った企画も検討するのも良いのではないか。

・委員：子育て世代（30～40 代）の利用は、子どもの貸出と合わせて親が読むケースもあり、学校図書館との相乗効果も期待できると指摘。学校側でも同時期に読書週間や図書委員会主導の取組を実施。家庭・学校・図書館の同時並行で読書環境を整えることが有効。

・委員：交通の便の問題で「行きたくても行けない」高齢者の声。電子は苦手層も多い。アナログな支援手段の検討が必要。

→副会長：手間だけど選択肢として、他館事例で郵送貸出（有料）を紹介。

→会長：電子図書館の利用説明会継続・拡充は意義大。ただし非デジタル層への別手段の併走が必要。

・会長：新刊は予約で即時貸出中となり棚で視認しづらい。誤解（新刊がない）が生じやすい。予約やリクエストの活用といった「上手な利用術」の発信が有効。

→事務局：HP の新着表示位置を改善。図書館専用の SNS でも情報発信中。

２．令和８年度 図書館運営方針及び事業計画について　　資料Ｐ９ ～ 10

・事務局：資料Ｐ９～10 について、説明。

・委員：方針記載の「家庭・地域・保育所・幼稚園・学校・行政が一体」の具体策は？

→事務局：団体貸出、読書ボランティアのおはなし会、各主体での取組連携を想定。

→委員：学校側でも読書週間等を独自実施。時期を合わせて相乗効果を狙う実践例を紹介。

・委員：次の子ども読書活動推進計画は、いつ頃に完成する？

→事務局：現在の計画が令和９年度末までとなっているので、令和 10 年度初めを予定している。

→会長：計画は網羅的になり中心主体が不明確になりがち。図書館が全て背負うと過重。提案の受け皿を明確化し、期限設定を伴う推進管理が必要。

・委員：ネット検索に依存しない「調べて考え、根拠を示す」学習を公共図書館でも後押ししたい。発表・共有の場を設け、読書の「楽しむ＋探究」の両輪を。

→委員：AI 時代の思考力・情報リテラシー育成として意義深い。伴走支援（資料探索指導、著作権配慮、評価・発表機会）の設計が鍵。

３．令和８年度 事業実施報告（４～５月）について　　資料Ｐ 11 ～ 13

・事務局：資料 P11～13 について、説明。
・会長：がん講座のような連続講座は評価が高い一方、回を重ねると内容の重複が発生しやすい。切り口の更新（対象別、疾患横断テーマ、予防・生活習慣連動、Q&A 強化等）や、次の柱企画の並走検討が必要。企画の新陳代謝を意識。
・委員：絵本は大人向け含め全世代に浸透。著作権に配慮しつつ、選書・展示・ブックリスト・SNS 等で裾野を拡大可能。
・事務局：高校生（玄界高校）とのおはなし会協力を継続予定（冬・夏）。参加機会の拡充を図る。
・会長：外国語絵本読み聞かせ等、多様な読書体験プログラムが有効。
・委員：公民館が開いておらず子どもが行けない課題。第二図書館的な仕組みや「本に触れられる場」を分散配置する構想を検討したい。
→会長：移動図書館はコスト課題がある。ただ、子ども達が本に親しめる場を広げるというということは、難しいところがあるが大事なこと。

【連絡事項】

委員の任期：現在の任期は令和 6 年 8 月～令和 8 年 7 月（2 年間）。本会議が最後の予定。

【閉会】